

第4回行財政検討審議会議事録

日時：令和8年8月20日午後1時～午後2時40分

場所：本庁舎4階会議室4-2

傍聴者：なし

【委員一覧】

- ◆大沼 正成委員
- ◆尾上 勝紀委員
- ◆梶原 晶委員
- ◆北村 晃子委員
- ◆澤井 信子委員
- ◆田中 秀樹委員
- ◆富田 唯委員（欠席）
- ◆原田 智委員
- ◆松田 克也委員（欠席）
- ◆壬生 裕子委員

1. 開会

2. 協議

(1) 諮問事項全体の追加審議等について

【会長】

・当日配布資料1を見る限り、大量に退職者が発生しているわけではないので、悲観することはないと思われる。

【委員】

・市の今の状況を市民に伝える必要はあるが、方法によっては不安をあおることになる。ゴミ袋有料化が近隣自治体でも進んでいるが、市の今の状況を伝えるには、一番の方法ではないか。

【会長】

・導入されるまでは一定の反発はあるが、実行されれば慣れてくるのではないか。

【副会長】

・部長職で高まっている変革への意識が次長以下に伝わっていない可能性について、日々の業務が優先されるのが理由とのことだが、改善するための取組はしているのか。

【事務局】

・日々の業務に追われているのが現状。審議会でご議論いただいた改革を進めることで、改善していきたい。

(2) 答申(案)について

1. 本審議会設置の背景と審議経過
意見なし

2. 行財政改革の基本的な考え方
意見なし

3. 諮問事項別方策

(1)スクラップ&ビルドの推進

①事務事業の整理合理化

【副会長】

・冒頭の3行について、長期間継続している事業以外は整理合理化の対象外との印象を受ける。また、文末の「～おそれがあります。」との書き方を、他の箇所と揃えてはどうか。

【委員】

・現在実施していることはなかなか止められないのが実際である。止めるかどうか判断するのではなく、これから新たに始めると仮定した場合に始めるかどうかという判断基準で検討してみてはどうか。

また、止めた場合の責任の所在などの理由で止められない場合も多くあるので、誰が止めると決めるのではなく、組織として止める決定を下すことが重要である。

【委員】

・二つ目の項目において、「～市民生活や地域社会にもたらした成果を」とあるが、成果について求めるのは難しいのではないかな。

②効果的施策の創造

【委員】

・最近、主に国で取り組まれているEBPMについては、課題もあるが自治体でも取り上げられることが増えている取組なので、答申案に明記してもよいのではないかな。

(2)行政DXの推進

①デジタル化による市民サービスの向上

【委員】

・職員のデジタルスキル向上について、人材マネジメントの推進の中では触れているが、行政DXの推進では触れないということではいいかな。

【事務局】

・その通りです。

②行政の効率化

【委員】

・ごみの有料化のように、市民に痛みを伴う事業取組について理解してもらうには、職員が積極的に業務改善に取り組む姿を理解していただく必要があるのではないかな。生成AIについて言えば、判断の部分までAIに任せて、職員は管理監督だけをするくらいでないと十分な費用対効果が出ないとされている。AI利用で勤務時間が何時間削減されただけでなく、例えば人件費の削減等にまで踏み込んで取り組まないと理解を得られないと思われる。

【委員】

・本気度を市民に感じてもらうためには、人件費の削減まで記載した方がよい。

【委員】

・人件費の削減方法には様々なものがあり、答申で表現する方法も様々なあるが、市民に市の覚悟が伝わる記載が必要ではないかな。

【委員】

・AIの導入における先進事例を見ていると、最初から全部任せるのではなく、曖昧

なことが多い判断基準を明確にした上で、初期の段階はA I に判断の案を出させるなどするものの、最終的には人が対応している。問題が生じなければA I に任せる範囲を徐々に拡大し、気が付けばA I に任せきっていたという方向で取り組むのがよいと考えられる。

【委員】

・各種委員会があり、委員には報償費が発生しているが、委員数の見直しなど委員会のあり方について検討しているのか。

【事務局】

・法令で定められているものもあるため、難しい面もある。

【委員】

・A I を導入するにあたり費用が発生すると思うが、導入するシステムは決定されているのか。

【事務局】

・公募型プロポーサルにて選定した。

【会長】

・個人情報保護と情報セキュリティについて触れた方がよい。

(3)人材マネジメントの推進

①人的資源管理の強化

【委員】

・年1回の採用、異動ではなく、通年採用、通年異動を採用している自治体もある。

【委員】

・通年採用、通年異動を採用することによりどのような成果があるのか。

【委員】

・最近の話題であればイラン情勢に伴う物価高など、社会の急激な変化に対応した取組ができる。

【副会長】

・銀行では異動は頻繁に行われる。

【委員】

・三つ目の項目において、「若手職員については」とあるが、どの程度の職員が若手なのか。

【会長】

・一般的には入庁5年目くらいと思われる。経験とスキルを磨いてから昇進させるのがのぞましいため、具体的な年数は記載せず、職員養成についてはなど、別の表現にしてはどうか。

②エンゲージメント向上

【副会長】

・五つ目の項目において、「DXをはじめとする行政改革について」とあえて行財政改革としていないが、意図があるならその旨を明記した方がよいと思う。

【会長】

・一人ひとりの職員が、公務員としてのやりがい・満足感を向上させるという要素も入れてもよいのではないか。

【委員】

・公務員には利他の精神が求められる。公に対して奉仕するのをやりがいとするのが公務員の姿とされているが、個人としてやりがい・満足感を向上させるという要素を最初の項目に入れた方がよい。

4. 結びに

【委員】

・5段落目に、「改革は策定して終わりではなく」とあるが、情報システムの分野でもシステム構築が完了するとプロジェクトが終わったと誤解されることがよくある。「策定してからがスタート」と位置づけるのか、「策定して終わりではなく継続して取り組む」と記載するのか、実際に取り組む内容は同じではあるが、記載方法を一度検討してみてはどうか。

【会長】

・市民に今の状況を伝える必要があるとの意見があったが、その内容を盛り込んではどうか。

【委員】

・3段落目において「市民サービス」と「行政サービス」とあるが、市民、行政のいずれかで統一してはどうか。

(3)パブリックコメント募集について

【副会長】

・市民の声を反映させることは重要である。個々への回答はしなくても、どのように反映させたかを公表することは重要である。

その他

【委員】

・A I を利用した業務改革については、まだ黎明期であるため、A X、A I -driven Transformation など言葉が乱立している。市のイメージ戦略とも絡むので、どの言葉を選ぶのか、言葉のインパクト等を考慮して検討されてはどうか。

3. その他

【事務局】

第5回目の審議会は、現在のところ書面会議を予定している。詳細については、改めて連絡する。

4. 閉会